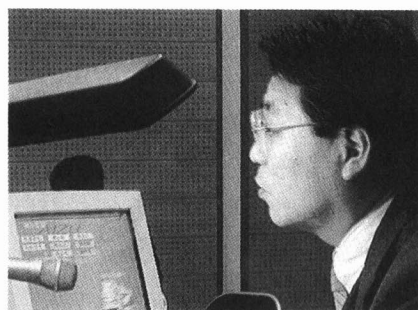


福島県立若松商業高等学校 鈴木 善久 教諭

コンピュータを情報発信ツールとして利用することで、表現能力が高まり、課題解決に際して柔軟性・創造性を持って対応する基盤が育つのではないかとこの考えに立ち、会津の観光地をVisual BasicとHTMLで作成させたところ、学習意欲も向上し協調性・確実性のある発表作品となったとの紹介がありました。



福島県教育センター 北村 政弘 長期研究員

学習者が主体的に学ぶ「学ぶソフトウェア」への転換を図るため、児童の実態や地域に密着した教材を誰もが手軽に作成できるようなデータベース型ソフトウェアを開発しました。データベース並べ替え機能を付加し、出席番号順や正誤判定などの表示や問題を提示する画面と結果を表示する画面をマルチウィンドウ化する工夫した小学校算数科のソフトウェアの紹介を行いました。



福島県教育センター 小野崎卓也 長期研究員

学校のコンピュータ室のように数十台のコンピュータが接続されるような環境下では、各種サービスサーバに一括処理させるクライアント・サーバ型がネットワーク全体のパフォーマンス向上及びセキュリティ上望ましいといえます。そこで、イントラネット内でWebサーバ（ホームページを管理するサーバ）を運用するために、簡単な操作で掲示板やアンケート等のCGIを動作させることのできる環境の構築を行った研究について発表を行いました。



福島県教育センター 小山 健幸 長期研究員

コンピュータの利用形態は、従来のコンピュータを単体で使用するスタンドアロンからLANやインターネットに代表されるネットワークに急速に移り変わりつつあります。そこで、生徒一人一人についての情報をWebページ上から入力できる「生徒情報システム」や校内で行うアンケートのデータをAccessで集計できるようなシステムを開発し、その成果を発表しました。



【第4分科会】 教科教育1

児童生徒の主体的な学習活動を促す指導法や、思考力や表現力を高めるための支援の在り方等について、実践的な研究が発表されました。いずれの発表も新学習指導要領のキーワード「生きる力」を育成するための授業づくりにつながるとともに、各教科の特性や子供たちの実態を踏まえた魅力あるものでした。